別紙様式1

令和6年度　学校評価表

（最終）　三原市立糸崎小学校　校番（2）

a 学校教育目標	「学び　つながり　挑戦する子ども」 ―地域を支え　世界で活躍する姿をめざして―	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 郷土に誇りをもち，自ら考え，判断し，決断して行動できる児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 自分で決めて挑戦し，共に学び合う「知・徳・体」で調和のとれた糸崎っ子を育成する。 【求められる教職員像】 自己成長に努め，協働し，自らチーム糸崎小の一員として創造的に職務を果たしていく教職員

評価計画							自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9 月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	主体性・積極性を育て、子ども主体の「深い学び」をファシリテートする授業づくりを進める。	「糸小版学び合い」による授業づくり	・必然性のある問いの設定（単元　時間ごと） ・めあてとルーブリックを児童と共有 ・多様な学びを選ぶことができる環境づくり（ICT器機の活用　思考スキル　図　文　絵等） ・授業タイムマネジメントの徹底	・NRT、全国学力学習状況調査（対県比）の結果　平均との比較 ・学期末テスト 国語科、算数科で、知識・技能、思考・判断の合計平均が80%以上の児童の割合	・全国学　100% ・NRT100% ・国語85% ・算数85%	教育研究部	全国 99% NRT 101% 国70% 算72%	国67% 算59%	全国 99% NRT 101% 国78% 算69%	B	学期末・まとめとストの結果・平均到達率は 国語：知・技70%　思・判・表66%　平均67% 算数：知・技69%　思・判・表49%　平均59%であった。 9月と比較し、算数の思考・判断・表現が大きく下がった。その結果として、問われている事項の正確な把握、それを解くための既習事項を活用する力が不足していると考えられる。 「学び（考えること）がおもしろい」に肯定的評価をしている児童の割合82%、「比べて聞く」に肯定的評価をしている児童の割合82%、「結論先行、理由をつけて説明する」に肯定的評価をしている児童の割合67%であった。前回64%だったのに対し、わずかであるが上がっている。授業の中で答える際、結論先行、理由づけて話すことを意識して行えていないことが課題である。	・算数の思考・判断・表現が目標値に達するように思考・判断・表現に関わる問題を解く経験を増やすようにする。そのために、授業の中では、適応問題をする時間を必ず確保すること、学習したことを確認するための宿題の出し方を工夫するなど、繰り返し学習することで解き方を学べるようにする。 ・次年度の全国学力状況調査・NRTテストに向けての対策として、児童が苦手な単元に関するアシストシートや問題を朝のドリルタイムで継続的に行う。その際、解き方を教えたり、解説を行うことで、問題に慣れさせ、学習の定着も図る。 ・国語・算数における思考・判断・表現を上げるためには、授業の教材を通して、考え方を身に付けさせていく必要がある。そのためにも、「どうしてそのように考えるのか」「根拠となるところはどこなのか？」「既習事項で使えるものはないか？」等、考える材料を児童に与え、その中で自分の考えを筋道立ててもてるような授業改善が必要である。	5			・学力向上にしっかり取り組んでいる。 ・先生方の熱意が伝わってきた。 ・小中での共通の課題があり、小中連携の中で課題解決に向けて研修を推進していきたい。 ・説明や話を聞くということを基本にしながら、自分で考えて問題を解いたり、行動したりすることが大切である。 ・課題に対して、様々な考え方があり、その考えを自分と比べたり、取り入れたりすることが大切である。 ・学習が困難な児童をフォローしていく大切づくりが大切。
				・学習アンケート 「学び（考えること）がおもしろい」「比べて聞く」「結論先行、理由をつけて説明する」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合	90%		79.0%	77.0%	85%	B						
		振り返りの充実	・学びポートフォリオ（キャリアログ、各教科の学びの成果物）をもとに自らの学びを再構築する。 ・めあてに対して視点を明確にしたまとめと日々の学びの振返りの徹底（R80の充実） ・三者懇談会で自己表出 （学期ごとの学びの成果と課題、その克服を自分の言葉で担任と伝える。）	・学習アンケート 学びポートフォリオ（キャリアログ・学びの成果物）で自分の学びを振返り、自分の成長や課題がわかる児童の割合	90%		93%	86%	96%	B	学びポートフォリオ（キャリアログ・学びの成果物）で自分の学びを振り返り、自分の成長や課題がわかる児童の割合は、86%であった。キャリアログで振り返ることで、自分の成長や課題発見につながっていることが分かった。	キャリアログで振り返ることで、自分の成長や課題発見につながっている児童もいる半面、9月に比べて数値が下がっていることから、自分自身で見つけるのが難しい児童がいることが分かる。指導者だけでなく友達など他者と伝え合う時間を確保していく必要がある。	5			・自分が成長した過程を振り返るのはとても大切であり、今後とも指導していってほしい。
豊かな心と健やかな体の育成	レジリエンスを根底に据え、協働し、挑戦する中で、自分の役割を果たし、豊かな人間性と体力を培う。	挑戦する子どもの育成	・糸小ギネスを学期ごとに行事やJタイム、体育の授業と関連させ必然性をもたせた取組の実施（知・徳・体で分けて）	・自分のことアンケート 「自尊感情の項目　6　13」 「自己効力感の項目　17」 「回復力の項目　22　24」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合	85% 90%	生徒指導部	83.8% 83.3%	74.1% 78.3%	87.2% 87%	B B	全体的に数値が下がっていた。特に「わたしはみんなの役に立っている」の自己評価が下がっていた。糸小ギネスなどの取組により、学級への貢献場面はあるものの児童自身の満足感や貢献感につながっていないという結果であり、実感を伴った取り組みにしてく必要がある。また、回復力の項目については特に、「つらいことがあっても気分転換がうまくできる」の自己評価が低くなっていた。気分転換などの具体的な方法を児童に示す機会を設けるなど手立てが必要である。	ギネスの取組を進める際、自己評価だけでなく、相互評価の場面を取り入れるようにする。また、回復力の育成についてもギネスの取組を生かし、困難であっても粘り強く行うことで達成できたことへの価値づけを行う。さらに、気分転換の方法など具体的に児童に示したり考えたりする場をレジリエンス朝会だけでなく、年間を通して設定していく。	5			・体力が平均より上なことは良いが、それよりも運動が楽しい、好きという児童を育てるのが大切である。 ・市内では体力低下が課題であるが、小学校で体力を伸ばしている取組は素晴らしい。今後とも伸ばせるよう指導していってほしい。 ・ギネスの取組で、子供達がいきいきと取り組んでいるようで、安心しました。内容、過程を大切にしながら、今後とも続けていってほしい。
		体力づくりの推進	・集団目標とその目標を皆で達成するための個人目標の設定 ・自己決定や相互評価の時間を確保し、意欲向上につなげる。	・体力つくりアンケート 体を動かすことが好きな項目関連の肯定的評価の割合 ・糸小ギネス（体）での自分の目標の振返りで目標達成した児童の割合	90% 90%	保健体育部	91.4% 87.7%	91.4% 87.9%	101% 97%	A B	・運動がとても好き（60.0%）すき（31.4%）の合わせて91.4%の児童が運動に対して肯定的な思いをもっていた。Jタイムや週に一回の外遊びの日が定着し、楽しく体力つくりが行えている。 ・糸小ギネス（体）での自分の目標の振返りで目標達成した児童の割合が87.9%と、目標の90%には届かなくとも近づくことができた。行事と関連付けて目標設定をし、児童同士で声をかけ合い取り組んだ成果があった。 ・短期間での取組で終わることなく継続した取組になるように働きかけをする。	持久走大会、縦割り班駅伝などゴールの姿や目標を持たせ、Jタイム等で、5分間走やサーキット運動など、体力向上に繋がる取組を計画的に行っていく。 Jタイムで行う運動の意図を職員及び児童にしっかり伝え、体育の授業で効果的に取り入れ、体を動かすことの楽しさを日常的に味わえる児童を増やす。	5			
信頼される学校	教職員の働き方改革を推進する。	組織マネジメントの確立 業務改善の推進	・学校経営委員会や各部会の機能化 ・業務の精選及び改善方策の検討及び実働 ・効率的な業務遂行と教職員の時間管理能力の向上 ・自己申告による定時退校日（1日）の実施 ・毎週木曜日のすいすい定時退校の実施 ・18時の確実な施錠	・在校時間（外）が月35時間以下の職員数の割合	100%	教務部・総務部	93%	93%	92.8%	B	・在校時間（外）が月35時間以下の職員の割合は。13/14で92.8%であった。業務遂行と時間管理は、数字上は達成されている職員が多いが、逆に持ち帰りの仕事が増えており、課題が残る。 ・定時退校日や時間を決めて、意識をして業務をすすめることはできている。	・退校時刻を早めることだけが目的にならないように、各分掌の効果的な業務遂行と精選を行っていく。 ・持ち帰り仕事が減るように、事務作業日を設定し、業務集中を行った。 ・時間管理の方法を共有し、組織的に行動できるように業務の見える化を行う。 ・日課表の見直しも含めて、授業時数を確保しながら、児童・教員ともにより良い日程を考えていく。	5			・できることから実践していると思う。 ・小学校では、担任をしながら仕事をするとどもうしても、持ち帰りになってしまうところがある。いい方策を考えたら、職員にすぐに周知する必要がある。 ・どの先生も努力されている。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。ハ：分からない。